

平成 25 年度（2013 年度）

京都市立芸術大学大学院音楽研究科博士（後期）課程学生募集要項

【目次】

第 1	募集人員	1
第 2	出願資格	1
第 3	出願期間	2
第 4	出願手続	2
第 5	出願書類	4
第 6	入学者選抜試験	6
第 7	合格発表	10
第 8	入学手続	10
第 9	入学に要する経費	10
第 10	音楽研究科博士（後期）課程の概要	11

（【問合せ先】

京都市立芸術大学 事務局 教務学生支援室入試担当

〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町 13-6

TEL：075-334-2238

FAX：075-334-2281

メールアドレス：nyushi@kcua.ac.jp

第1 募集人員

(標準修業年限3年)

専攻	研究領域	募集人員
音楽	作曲・指揮 器楽 声楽 音楽学	5名 *上記募集人員には、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜(若干名)を含みます。

第2 出願資格

1 一般選抜

- (1) 修士の学位を得た者及び平成25年3月までに修士の学位を得る見込みの者
- (2) 外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- (3) 修士の学位を有する者と同等以上の学力があると文部科学大臣が認める者
- (4) 修士の学位を有する者と同等以上の学力があると本大学院において認める者で、平成25年3月31日までに24歳に達する者

*出願資格(4)の資格認定を希望する者は、出願資格認定審査等の手続を要するため、平成25年1月11日(金)までに教務学生支援室入試担当へ必ず照会してください。なお、この場合、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると判断するために、出願前に「第5 出願書類」以外の書類を提出する必要があります。

2 社会人及び外国人留学生特別選抜

特別選抜とは、大学院における専門教育の開放と交流を目的とし、選抜試験のうち語学試験を免除するもので、一般選抜の出願資格のいずれかに該当する外国人留学生及び一般選抜の出願資格のいずれかに加えて以下の一に該当する社会人を対象とします。

- (1) 出願時において各種の企業、研究機関又は教育機関に正規職員として勤務し、入学後もその身分を有し、所属長から推薦を受けた者
- (2) 出願しようとする研究領域に関連した職種に3年以上の勤務経験を有すると本大学院が認めた者
- (3) 出願しようとする研究領域に関連した活動を3年以上行っていると本大学院が認めた者

*特別選抜による受験を希望する者は、出願資格認定審査等の手続を要するため、平成25年1月11日(金)までに教務学生支援室入試担当へ以下の書類(A4縦長・横書き)を提出してください。郵送でもかまいませんが、期限内必着となるよう留意してください。

- ・履歴書：高等学校卒業以降の学歴及び職歴を記載したもの
- ・業績書：著書、論文、作品、演奏会出演歴等の業績を記載したもの
- ・所属長の推薦書(社会人で特別選抜出願資格(1)に該当する者のみ)
- ・日本語能力証明書又は日本語教育修了証明書(外国人留学生のみ)
公的機関又は学習した機関による証明書で、学習期間が記載されたもの

第3 出願期間

平成25年(2013年)1月27日(日)から1月31日(木)まで(期間内の消印を有効とします。)

第4 出願手続

1 入学考査料の払込み

郵便局窓口で「払込取扱票」により、入学考査料17,000円を払い込んでください。払込み機能付きのATMからの払込みも可能です。払込みには別途手数料がかかります。

なお、入学願書提出後、入学考査料は一切返還しません。

払込取扱票への記入事項	
口座記号番号	01010-1-8725
金 額	17000
加 入 者 名	京都市立芸術大学出納員
通 信 欄	京都市立芸術大学入学考査料 音楽研究科博士(後期)課程
ご 依 頼 人	志願者本人の住所・氏名・連絡先電話番号

<記入例>

払 込 取 扱 票									
00		口座記号・番号はお間違えないよう記入してください。							
口座記号		口座番号(右詰めで記入)		金 額		千 百 十 万 千 百 十 円			
0 1 0 1 0		1 8 7 2 5		1 7 0 0 0					
加入者名 京都市立芸術大学出納員				料 金		備 考			
通 信 欄 京都市立芸術大学入学考査料 音楽研究科博士(後期)課程 〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6 京芸 太郎 (ご連絡先電話番号 075-334-2238)				日 付		印			
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行) これより下部には何も記入しないでください。									

振替払込請求書兼受領証									
口座記号番号		0 1 0 1 0		1 8 7 2 5					
加入者名		京都市立芸術大学出納員		金 額		千 百 十 万 千 百 十 円			
				1 7 0 0 0					
ご依頼人		おなまえ 京芸 太郎		日 付		印			
料 金		(消費税込み)		円					
備 考									

この受領証は、大切に保管してください。

2 出願書類の提出

「第5 出願書類」を「第3 出願期間」内に必ず速達・簡易書留で郵送してください。（直接大学に持参されても受け付けません。）なお、封筒の表には必ず「音楽研究科博士（後期）課程入学願書在中」と朱書きしてください。

【郵送先】

〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13-6
京都市立芸術大学事務局教務学生支援室入試担当

3 受験票

出願書類を完備し、上記の出願手続を行った者には、受験番号を決定のうえ受験票を志願者宛てに送付します。受験票が平成25年2月17日（日）までに到着しない場合は、教務学生支援室入試担当まで電話で問い合わせてください。

4 注意事項

出願は一つの研究領域に限ります。なお、器楽研究領域でトロンボーン及びフルート以外の管楽器での受験を希望する場合は、出願前に必ず教務学生支援室入試担当に問い合わせてください。

第5 出願書類

1 入学願書

本学ホームページから「入学願書」をダウンロード及びプリントアウトのうえ使用してください。記入する氏名は戸籍名と同一のこと。住民票が作成される外国籍の方は住民票の写しに記載されている氏名と同一のこと。その他の提出書類についても同様とします。

*この入学願書に記載された個人情報は、受験手続のために使用し、それ以外の目的には利用しません。

2 各研究領域において指定する書類

領域	提出書類	内容についての条件等
作曲・指揮	修士論文 (修士論文を書いていない志願者はそれに代わる論文)	- いずれの場合も日本語（8,000 字以上）又は英語（3,000 語以上）の論文とします。それら以外の言語による論文の場合は、日本語（4,000 字以上）又は英語（1,500 字以上）の全訳又は要約を添付すること。 - その他に参考資料（論文等）がある場合は、同時に提出してください。
	博士論文に関する研究計画書	- 日本語（2,000 字以上）又は英語（800 語以上）によるものとします。 - A 4 縦長・横書きで、表紙に氏名と研究領域を明記すること。
	作曲・指揮に関する研究計画書	- 日本語（800 字以上）又は英語（300 語以上）によるものとします。 - A 4 縦長・横書きで、表紙に氏名と研究領域を明記すること。
	実技試験で使用する資料	詳細は「第6 入学者選抜試験」の「3 試験内容」（7 ページ）を参照してください。
器楽及び声楽	実技及び博士論文に関する研究計画書	- 日本語又は英語によるものとします。（字数制限はありません。） - A 4 縦長・横書きで、表紙に氏名と研究領域を明記すること。 - 論文（修士論文を含む）等がある場合は、同時に提出してください。
	実技試験で使用する資料	詳細は「第6 入学者選抜試験」の「3 試験内容」（8 ページ）を参照してください。
音楽学	修士論文 (修士論文を書いていない志願者はそれに代わる論文)	- いずれの場合も日本語（8,000 字以上）又は英語（3,000 語以上）の論文とします。それら以外の言語による論文の場合は、日本語（4,000 字以上）又は英語（1,500 字以上）の全訳若しくは要約を添付すること。 - その他に参考資料（論文等）がある場合は、同時に提出してください。
	博士論文に関する研究計画書	- 日本語（2,000 字以上）又は英語（800 語以上）によるものとします。 - A 4 縦長・横書きで、表紙に氏名と研究領域を明記すること。

3 修士（博士前期）課程修了証明書又は修了見込証明書

本学修士課程修了者及び修了見込者は提出する必要はありません。

4 写真 2 枚

出願前 3 ヶ月以内に撮影した上半身・無帽・正面向きのもので、大きさは縦 4cm×横 3cm とします。
なお、2 枚とも必ず裏面に志願者の氏名を記入してください。

5 受験票返送用封筒

長 3 サイズの封筒の表に志願者の郵便番号、住所及び氏名を明記し、650 円分の切手（速達・簡易書留）を貼付してください。

6 郵便振替払込請求書兼受領証のコピー

入学考査料の払込みに係る受領証のコピーを同封してください。

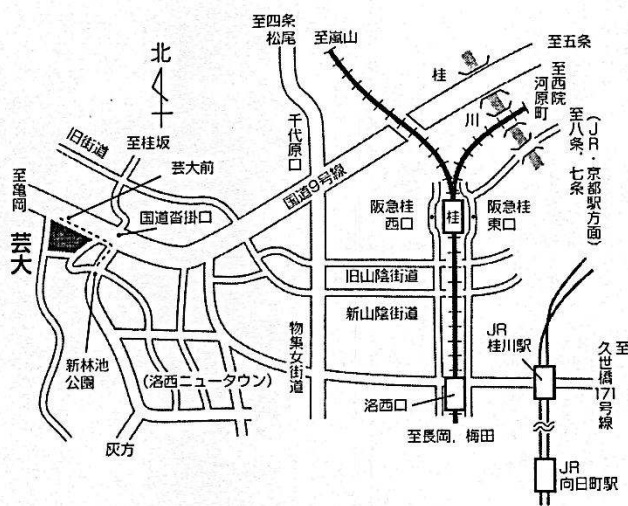
第6 入学者選抜試験

1 試験会場

京都市立芸術大学大学院音楽研究科（京都市西京区大枝沓掛町 13-6）

◆試験会場への略図

◆試験会場周辺略図



◆試験会場への交通機関

平成 24 年 11 月 1 日現在

主要な駅	のりば	バスの種類	乗車時間	最寄りのバス停	バス停から大学までの所要時間
JR 京都駅	C2 のりば	京阪京都交通バス (2・14・28A 系統)	約 45 分	芸大前	徒歩すぐ
	C5 のりば	市バス (73 系統)	約 45 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分
阪急烏丸駅	四条烏丸 D のりば	市バス (29 系統)	約 50 分	新林池公園	徒歩約 20 分
阪急桂駅	桂駅東口 ②のりば	京阪京都交通バス (1・2・13・14・25・28A 系統)	約 20 分	芸大前	徒歩すぐ
	桂駅西口	市バス (西 1 系統 ※昼間は西 8 系統)	西 1 は約 20 分 西 8 は約 25 分	新林池公園	徒歩約 20 分
		市バス (西 5 系統)	約 20 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分
JR 桂川駅(阪急洛西口駅経由)		京阪京都交通バス (11A 系統)	約 15 分	芸大前	徒歩すぐ
JR 向日町駅 (JR 桂川駅・阪急洛西口駅経由)		ヤサカバス (1 号系統)	約 25 分	国道沓掛口	徒歩約 10 分

【注意】

- 交通機関の利用については、路線及びダイヤの変更に留意するとともに、周辺の交通事情等を事前に把握し、試験当日、指定の時刻に遅れることのないよう注意してください。
- バスは京阪京都交通の利用が比較的便利です。

2 試験日程

日 時		科 目
3 月 1 日 (金)	10:00～11:30	語学試験
	午後	口述試験 (音楽学領域)
3 月 2 日 (土)	10:00～	実技試験 (作曲・指揮領域, 器楽領域及び声楽領域)
	実技試験終了後	口述試験 (作曲・指揮領域, 器楽領域及び声楽領域)

* 受験の詳細については、事前に受験票とともに郵送によりお知らせします。

3 試験内容

各研究領域において課す試験の内容は次のとおりです。ただし、社会人及び外国人留学生特別選抜の志願者については、語学試験を行いません。

(1) 作曲・指揮領域

科 目	内 容
語学試験	英語, ドイツ語, フランス語及びイタリア語の 4 か国語の中から 1 か国語を選択してください。(辞書の持込可。ただし電子辞書の場合は通信機能の無いものに限ります。)
口述試験	提出論文等及び研究計画書に関する口頭試問
実技試験	作曲 出願時に主要作品を提出すること。その際に提出作品の CD を添えてもかまいません。(提出作品及び CD は返却しないので, それぞれコピーを提出すること。) 提出する作品数は限定しません。また, 修士作品を提出してもかまいません。 提出された作品に対する口頭試問を行います。 指揮 バロック, 古典派, ロマン派, 近代, 現代 (1945 年以降に作曲された作品で, 楽譜が出版されたもの) のそれぞれを含む 8 曲以上のレパートリーの一覧表を出願時に提出し, そのうち当日指定された 2 曲を指揮すること。(演奏は本学で準備するピアノによるものとします。) また, レパートリー一覧表について口頭試問を行います。

(2) 器楽領域

科 目	内 容
語学試験	英語，ドイツ語，フランス語及びイタリア語の 4 か国語の中から 1 か国語を選択してください。(辞書の持込可。ただし電子辞書の場合は通信機能の無いものに限ります。)
口述試験	研究計画書等に関する口頭試問
実技試験	ピアノ バロック，古典派，ロマン派，近代，現代（1945 年以降に作曲された作品で，楽譜が出版されたもの），エチュード（高度な技術を要するもの）のそれぞれを含む 1 時間程度のプログラムによるリサイタルを準備すること。 プログラムは出願時に提出すること。 ＊都合によりプログラムの一部を省略させることがあります。 弦楽 1 時間程度の自由構成プログラムによるリサイタルを準備すること。 リサイタルは，ヴァイオリン又はチェロによる演奏であること。 プログラムは出願時に提出すること。伴奏が必要な場合はピアノによるものとし，ピアニストを同伴すること。 ＊都合によりプログラムの一部を省略させることがあります。 管・打楽 1 時間程度の自由構成プログラムによるリサイタルを準備すること。 ただし，打楽器については任意の鍵盤打楽器のために編曲された J.S.Bach の作品を含むこと。 プログラムは出願時に提出すること。伴奏が必要な場合はピアノによるものとし，ピアニストを同伴すること。 ＊都合によりプログラムの一部を省略させることがあります。

(3) 声楽領域

科 目	内 容
語学試験	英語，ドイツ語，フランス語及びイタリア語の 4 か国語の中から 1 か国語を選択してください。(辞書の持込可。ただし電子辞書の場合は通信機能の無いものに限ります。)
口述試験	研究計画書等に関する口頭試問
実技試験	1 時間程度の自由構成プログラムによるリサイタルを準備すること。 リサイタルは，2 か国語以上の原語による演奏であること。 プログラムは出願時に提出し，伴奏者は同伴すること。 ＊都合によりプログラムの一部を省略させることがあります。

(4) 音楽学領域

科 目	内 容
語学試験	英語，ドイツ語，フランス語及びイタリア語の4か国語の中から1か国語を選択してください。(辞書の持込可。ただし電子辞書の場合は通信機能の無いものに限ります。)
口述試験	提出論文等及び研究計画書等に関する口頭試問

【参考】過去3年間の語学の試験問題は，祝日を除く月曜日から金曜日の午前9時から午後5時までの間に限り，教務学生支援室入試担当事務室において閲覧することができます。(電話・文書等による照会には一切応じません。)

4 選抜方法

入学者の選抜は，上記試験内容の成績を総合して行います。

第7 合格発表

平成 25 年（2013 年）3 月 6 日（水）午後 3 時（予定）に本学内において掲示し、合格者には文書で通知します。なお、合格発表日の午後 4 時（予定）から約 1 週間、本学ホームページ（<http://www.kcua.ac.jp/>）に合格者の受験番号を掲載します。ただし、本学内における掲示による発表及び合格通知書の発送をもって正式な合格発表とします。電話による問合せには一切応じません。

* 本学ホームページへの合格者の受験番号掲載は、情報提供の一環として行うものであり、その安全性を保障することはできません。

第8 入学手続

合格者は、次のとおり入学手続を行ってください。詳細は、合格通知書とともに送付します。

1 手続期間

平成 25 年（2013 年）3 月下旬

2 手続場所

京都市立芸術大学事務局教務学生支援室入試担当事務室

3 入学料の納付

市内出身者 282,000 円

市外出身者 482,000 円

* 市内出身者とは、入学前年の 4 月 1 日以前から引き続き京都市内に居住し、住民票の写しにより証明される者のことです。

* 上記の入学料は平成 24 年度（2012 年度）入学者に適用されたものであり、改定があった場合は、合格者に通知します。

4 誓約書の提出（正・副保証人）

第9 入学に要する経費

入学料以外で必要となる経費は次のとおりです。ただし、授業料は平成 24 年度（2012 年度）入学者に適用されたものであり、改定があった場合は、合格者に通知します。

- | | |
|-------------------|--------------------------------------|
| (1) 授業料 | 535,800 円（年額）※前期、後期に分割して納入することができます。 |
| (2) 学生教育研究災害傷害保険料 | 2,600 円（3 年間分） |
| (3) 学研災付帯賠償責任保険料 | 1,020 円（3 年間分） |
| (4) 音楽教育後援会費 | 50,000 円（3 年間分）※留学生は払込不要です。 |
| (5) 真声会（同窓会）入会金 | 15,000 円 ※本学卒業生及び留学生は払込不要です。 |

第10 音楽研究科博士（後期）課程の概要

1 教育・研究目的

(1) 専門的研究が出会い、深化する場としての博士（後期）課程

学部における基礎教育並びに大学院修士課程等において積まれてきた専門的技能及び専門的学識の研鑽を踏まえた能力の持ち主が、広領域的アプローチを視野に入れて多様な展開を図りつつ、自己の専門領域の方法理論を深化させる課程として位置づけるものです。そのため、専門研究を担う「作曲・指揮」「器楽」「声楽」「音楽学」の4領域を音楽専攻として単一組織にまとめています。

(2) 地域が要請する博士（後期）課程

本学は開学以来、半世紀にわたって、京都のみならず、関西、西日本地区の音楽教育の中心的拠点として機能してきました。京都及び関西地区には10校を超える音楽系大学がありますが、現在、わが国の芸術系大学において理論・実技系両方の博士（後期）課程を設置しているのは、東京藝術大学やエリザベト音楽大学他、数校のみです。公立大学として、本学に課せられた役割からしても、本学の修了生のみならず、他大学の修了生にも高度な研究の場を提供します。

(3) 国際的な音楽教育・研究の場としての博士（後期）課程

本学はドイツのフライブルク音楽大学及びブレーメン音楽大学、オーストリアのウィーン国立音楽大学、イギリスの王立音楽大学並びに韓国の檀国大学校音楽大学と国際交流協定を結んでいます。博士（後期）課程は最高水準での音楽研究のための国際交流の場を提供します。この目的のため、博士（後期）課程の定員内で外国人留学生に対する特別選抜を実施し、受入れに対する配慮を行います。

(4) 社会人の再教育の場としての博士（後期）課程

すでに社会人として演奏活動や研究活動に活躍している専門家に、先端的な研究成果や情報、芸術的研鑽の場を提供し、社会人の再教育の場としての役割を担います。そのため、特別選抜を実施することにより、博士（後期）課程の定員内で社会人を受け入れます。また、音楽学部や音楽研究科修士課程を卒業・修了後、海外に留学し、豊かな経験を積んだ優秀な人材も歓迎します。

2 履修概要

(1) 履修課程

履修区分	授 業 科 目		履 修 年 次				履 修 単 位 数			
			1 年次		2 年次		3 年次	小計	中計	合計
必修科目	研究領域研究指導								4	12
	特別総合演習		1	1				2		
	音楽学演習		1	1				2		
選択必修科目	研究領域	作曲・指揮研究	2	2	2	2		8	8	
		器楽研究	2	2	2	2		8		
		声楽研究	2	2	2	2		8		
		音楽学研究	2	2	2	2		8		

(2) 履修方法及び修了要件

必修科目のうち、特別総合演習及び音楽学演習 2 科目計 4 単位、選択科目から各領域研究 8 単位以上を修得し、研究領域研究指導により博士論文（ただし、研究領域により、研究作品の発表又は研究演奏を行います。）を作成・提出して、審査及び最終試験に合格すること。

(3) 取得学位

作曲・指揮領域	}	博士（音楽） Doctor of Musical Arts (D.M.A)
器楽領域		
声乐領域		
音楽学領域……………		博士（音楽学） Doctor of Philosophy in Musicology (Ph.D.)

3 講義等の内容

(1) 研究領域研究指導（全研究領域対象）

博士論文作成のための指導、並びに博士学位審査のための研究作品制作又は研究演奏の指導。ただし、音楽学研究領域においては、博士論文作成のみとすることができます。

(2) 特別総合演習（全研究領域対象）

各研究領域における理論的研究を専門的に深化させるとともに、個々の研究領域の専門性を超えて、より広範かつ総合的な視点から研究の展開を図ります。そのために、他研究領域の教員や学生との共同討議を通して、専門領域以外の知見や理論的特質を探求し、それらを専門領域の研究に反映させます。

(3) 音楽学演習（全研究領域対象）

音楽の理論的・実践的研究の基礎となる音楽美学・音楽史学・音楽社会学・音楽心理学・音響心理学・民族音楽学についての考察を深め、専門領域の研究への応用を図るとともに、博士論文のテーマ決定に資します。

(4) 領域研究

研究領域・担当教員	研 究 指 導 内 容
作曲・指揮研究	作曲作品の実作又は指揮の実技と理論の研究を通して、高度な作曲技法又は指揮法の習得を目指します。そのために、作曲と指揮の密接な関係に鑑みて、双方向からの実践的・理論的研究を行うとともに、それらを取りまく歴史的、社会的、文化的状況についても理解を深め、新たな音楽の創造を図ります。
前田 守一 教授	作曲の作品制作及び理論の指導
岡田加津子 准教授	作曲の作品制作及び理論の指導
中村 典子 准教授	作曲の作品制作及び理論の指導
増井 信貴 教授	指揮法及びレパートリー形成の指導
器楽研究	器楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度な器楽演奏の修得を目標とします。そのため、演奏作品及び演奏法に関する実践的・理論的研究を行うとともに、それらを取りまく歴史的、社会的、文化的状況についても理解を深め、新たな器楽演奏の創造を図ります。

研究領域・担当教員	研 究 指 導 内 容
阿部 裕之 教 授	ピアノの演奏法一般並びに近代フランス音楽を中心とするピアノ作品の解釈の指導
砂原 悟 准教授	ピアノの演奏法一般並びにドイツロマン主義を中心とするピアノ作品の解釈の指導
上野 真 准教授	ピアノの演奏法一般並びに近現代ピアノ作品を含む解釈の指導
野原みどり 准教授	ピアノ演奏における作品解釈とレパートリー形成並びに機能的な奏法の指導
上村 昇 教 授	チェロ演奏法一般、弦楽作品解釈及び室内楽一般の指導
四方 恭子 教 授	ヴァイオリン演奏法一般、弦楽作品解釈及び室内楽一般の指導
豊嶋 泰嗣 准教授	ヴァイオリン演奏法一般、弦楽作品解釈及び室内楽一般の指導
呉 信一 教 授	金管楽器（トロンボーン）演奏法並びに管打楽作品解釈とレパートリー形成の指導
大嶋 義実 教 授	木管楽器（フルート）演奏法並びに管打楽作品理論研究、バロックから近代に至る管打楽作品解釈の指導
山本 毅 教 授	打楽器演奏法一般並びに近代・現代の管打楽作品解釈の指導
声楽研究	声楽演奏の実技と理論の研究を通して、高度な声楽演奏の修得を目標とします。そのため、演奏作品及び演奏法に関する実践的・理論的研究を行うとともに、それらを取りまく歴史的、社会的、文化的状況についても理解を深め、新たな声楽演奏の創造を図ります。
折江 忠道 教 授	声楽演奏一般並びに声楽楽曲解釈とレパートリー形成の指導
小濱 妙美 准教授	声楽演奏一般並びに声楽楽曲解釈とレパートリー形成の指導
北村 敏則 准教授	声楽演奏一般並びに声楽楽曲解釈とレパートリー形成の指導
音楽学研究	音楽学諸分野の先端的研究の成果をふまえた、高度な音楽学研究の達成を目標とします。そのため、音楽美学・音楽史学・音楽社会学・音楽心理学・音響心理学・民族音楽学に関する理論的研究を行うとともに、学際的・分野横断的な研究を積極的に推進し、新たな音楽学研究の創造を図ります。
龍村あや子 教 授	音楽美学・音楽社会学・西洋音楽史・比較音楽文化・ポピュラー音楽論の分野における高度な専門的知識を提供するとともに、個々の学生の関心に即した研究方法の指導
柿沼 敏江 教 授	西洋音楽史・現代音楽論・サウンドアート論及びその関連領域について、現代的・分野横断的観点に基づく音楽の表現・媒体の研究に関する指導
山田 陽一 教 授	民族音楽学・音響人類学・ポピュラー音楽論の観点から、世界諸民族の音楽の社会的・文化的意味の考察及び音楽民族誌記述の手法に関する研究の指導
津崎 実 教 授	音楽心理学・音響心理学・音響環境論・感性情報処理の観点から、高度な専門的知識や実験計画法・統計分析法などの研究方法論の指導